

おおくまの宝

第一弾

第一弾は若者特集。
大熊町の宝物は人！

横川圭介

川本大貴

梅田拓身

高橋恵子

加井佑佳

宮本優貴

佐藤一樹

西本真理子

おおくまの宝

第一弾

目次

大熊町にはいいものがたくさん。
自然、歴史、震災から立ち直ろうとする力・・・

その中でも一番すごいものってやっぱり大熊町の『人』。
「大熊町でこんなことやりたい！」
「こんな町になってほしい！」
「大熊町でこんな風に過ごしてみたい！」
そんなことを考えられる力。

大熊町の宝は人。
この本は、ほんの一部ですが大熊町の宝物を紹介しています。
まずは、第一弾です。

繋がることで強固に、認め合うことで高まる。
そんなきっかけを、この本でつくりたい。

この本が、これから大熊町に良いきっかけをつくってくれることを願って。

- 3 西本真理子 「『震災のおかげで』当たり前前は当たり前じゃないとわかった」
- 4 横川圭介 「誰もやったことのない挑戦を未来の大熊のために」
- 5 梅田拓身 「イチゴが新しい町の名産品になるように！」
- 6 加井佑佳 「大熊町の人が好き！大熊町民大同窓会をしたい！」
- 7 宮本優貴 「熊川稚児鹿舞のような“やってみたい”のヒントをつくりたい」
- 8 高橋恵子 「アートが好き！みんなでアート作品を作りたい！」
- 9 川本大貴 「総合グラウンドを復興ライブ会場に！」
- 10 佐藤一樹 「自然いっぱいの大熊町を遊び場に！」
- 11 大熊町ってどんなところ？

「震災のおかげで」

当たり前前はことは当たり前じゃないとわかった



西本真理子 (旧姓：小椋)

Nishimoto Mariko

大野一区

1984年生まれ

高校卒業後大熊を離れ、
仙台、いわきなどで仕事をし、
自分のお店を出したいと思い

24歳の時に大熊へ戻る。

26歳の年に東日本大震災が発生。

避難先の会津若松市でカフェをオープン。

現在は「ママとお子さまの笑顔のために」

をコンセプトとしたカフェや加工事業、
雑貨販売などを手掛ける

株式会社One's homeの代表取締役社長を務める。

URL <http://oneshome-aizu.com/>

私は会津若松にて株式会社One's homeというカフェや加工事業を行う会社を経営しています。加工事業では福島のお米を全国へ広めようと、米粉のパンやクッキーなどを作っています。また、会津の地域情報誌の制作などにも関わり地域活性化事業へも参加しています。

私がこうして地方を、福島をどうにかしたいと思えたのは東日本大震災がきっかけだと思っており、今では「震災のおかげで」と思っています！震災のおかげで私は当たり前前はことは当たり前じゃないとわかり、自分にできることは何かと考えることができ、人とのご縁を大切に思えるようになりました！

そして、大熊にいたころより大熊が好きになりました(笑)

大熊っていいところでしたね～。

大熊町でやってみたいこと！

普通に過ごしたいですね。イベントとかじゃなくて、ただの住人になって散歩で海を眺めたり、食堂行ってご飯たべたり、近所の方と何気ない会話をしたり、同級生にスーパーで会ってお互い子供の話したりして...そんなんが良いです。



誰もやったことのない挑戦を未来の大熊町のために

横川圭介

Yokokawa keisuke

大川原二区

株式会社

ネクサスファームおおくま

URL <https://nexus-f.co.jp/>



私は大川原2区出身の横川圭介と申します。32歳です。

2019年の4月から大熊町に帰還しています。

現在私は大川原の植物工場でイチゴ栽培を行う仕事に就いています。

もともと実家は兼業農家でしたが、当時は農業が好きではなくて、毎年の農作業を煩わしく思っていました。しかし、震災の影響で農作業ができなくなったときに、なんとなく寂しさを感じました。

その後一時帰宅関連の仕事に就いていた時に、大川原で植物工場事業が始まるという話を聞きました。その時にぼんやり考えたことは、このまま自分の世代で先祖たちから受け継いできた農業を終わらせるのか？新しい形になるが続けていくのか？ということです。

私たちの先祖が血を吐く思いで守ってきた土地で農業を続けていくことの意義と意味を考え抜き、

「結果に関わらず、地元出身者として挑戦しなければならない」という想いに至りました。

誰もやったことのない挑戦なので、日々大変なことばかりですが、十年後の大熊町のために頑張りたいと思います。

大熊町でやってみたいこと！

震災前は大熊町には、鮭、梨、キウイフルーツ等の素晴らしい名産品がありました。今後私たちが栽培するイチゴが新しい町の名産品となるように、そして、今後何十年と続いていく産業となるように頑張っていきたいです。

イチゴが新しい町の名産品となるように！

梅田拓身

Umeta takumi

熊二区

株式会社ネクサスファームおおくま

URL <https://nexus-f.co.jp/>

1993年生まれ、
双葉高校に通っていました。
趣味はゲームやマンガです。
休みはたまに出かけてほしいは
引きこもってゲームばかりです。
最近はユーチューブもよく見ます。

性格は真面目といわれたりマイペースと
言われます。



大熊町でやってみたいこと！

やってみたいこと、というより目標なのですが
今、大熊町でいちごを作る仕事をしていてそのいちごが
いつか大熊町の新しい名産品と呼んでもらえるよう
作っていくことが目標です。

大熊町の人が好き！大熊町民大同窓会をしたい！

加井佑佳

Kai yuka

夫沢三区

故郷である大熊町の人・自然がとにかく好きです。特技とまではいかないかも・・・ですが、中学校時に踊ったソーラン節が印象深く、震災後に双葉郡内のイベントで踊るようになりました。



大熊町でやってみたいこと！

県内外に引っ越した人を含め、大熊町民大同窓会をしてみたいです！
また、町内でゆっくりした時間を過ごしてみたいです。



熊川稚児鹿舞のような

“やってみたい”のヒントを作りたい

宮本優貴

Miyamoto yuki

熊川区

大熊町社会福祉協議会

URL <http://okuma-shakyo.or.jp/>

大熊町社会福祉協議会に勤めている宮本です。
大熊では鮭の孵化場のそばに住んでいました。
子どもの頃、イクラを食わず嫌いしていたことを
今になって後悔しています。
最近のマイブームは、言葉をしゃべりはじめた子
どもと、一緒に歌うこと！とても楽しいです。



大熊町でやってみたいこと！

私は中学生からドラムを始めました。

子供の頃には熊川稚児鹿舞を、そして小学校の時に鼓笛隊を経験しました。

鼓笛隊か、稚児鹿舞か、今となってはそれもひとつのきっかけ

だったのかなと考えます。

当たり前に関自分が感じていたような、子どもたちの“やってみたい”のヒントを
ひとつでも町に作っていったらと思います。



アートが好き！みんなでアート作品を作りたい！



高橋恵子

Takahashi Keiko

熊一区

英翻訳・通訳

コミュニティオーガナイザー

英語が話せます。

（ビジネス、一部専門分野にも対応！）

ヨガ好きが高じて2016年にインドでヨガインストラクターの資格を取りました。今はスペイン語を勉強中です。



大熊町でやってみたいこと！

異文化理解の交流事業、ヨガの授業など。
アートが好きなので、町民のみなさんと
なんらかのアート作品が作れたら面白いな、
とも思ってます。

総合グラウンドを復興ライブ会場に！

川本大貴

Kawamoto Daiki

下野上二区



AORA Official Site

URL <https://aoraband.wixsite.com/aoraofficial/live>



私は今、いわき市で出会った仲間と共に上京し、AORAというバンドでギタリストとして活動しています。

子供の頃から音楽に興味があった訳では無いのですが、震災後に沢山のバンドから影響を受け、自分もあなりたいと思い作詞作曲をするようになりました。

大熊町でやってみたいこと！

大熊町の総合グラウンドにパンパンに人を集めて復興ライブを行い、原発事故のイメージ払拭、若者が集まる町作りなどの手助けをしたいと思っています。



本冊子の表紙は
AORAのライブ写真！

自然いっぱいの大熊町を遊び場に！

佐藤一樹

Sato kazuki

熊三区



はじめまして。私は、熊3区の出身で、高校時代までを大熊町で過ごしました。震災後は、進学のために上京し、民間の企業に就職しましたが、ご縁があって、2018年4月から2020年3月までの2年間、民間企業からの出向という形で、おおくままちづくり公社で働かせていただきました。

私にとって、この2年間は故郷大熊町と向き合う大変貴重な時間となりました。特に「おおくま・おらほのカルタ」の制作に携わらせていただいたことが一番の思い出で、制作を通して沢山の文化や歴史に触れ、それらを後世に残していこうとする実行委員の皆さんの熱意にとても感銘を受けたのを覚えています。

私の大熊町に対する思いが変わったのも、このカルタ制作がきっかけだと思います。また、このように大熊町に関わった証が形となったことも私の思い出として強く残っている理由だと思います。

一大熊町民として大熊町のこれからが楽しみです。イベントなどにもどんどん参加しますので、これからもよろしくお願いします！



大熊町でやってみたいこと！

坂下ダムでキャンプイベント。最初は、小規模で開催し、徐々に規模を拡大して、キャンパー同士のつながりを大熊町が起点となり作り上げたい。大熊町をキャンプの聖地にしたい。

ところで・・・

福島県大熊町ってどんなところ？

大熊町は、フルーツの香り漂うロマンの里！

大熊町は、自然豊かな住み良い町です。

梨やキウイ、鮭が町の名産品でした。

2011年3月、

福島第一原子力発電所の事故による影響で

町全域に避難指示が出されました。

町内には、福島第一原子力発電所が立地しています。

避難生活が長期に渡ったことから、

大熊町民は全国各地にバラバラに暮らしています。

震災から8年が経過した2019年4月10日、

町の一部地域で避難指示が解除されました。

・・・現在、町での暮らしを再開した町民は約1％。

でも！

全国各地で大熊町に想いを寄せている**人**が
たくさんたくさん、いるのです。



写真：大野駅周辺（2020年3月5日、大野駅周辺でも一部避難指示が解除されました。）

大熊町にはいいものがたくさん。

自然、歴史、震災から立ち直ろうとする力・・・

その中でも一番すごいものってやっぱり大熊町の『人』。

「大熊町でこんなことやりたい！」

「こんな町になってほしい！」

「大熊町でこんな風に過ごしてみたい！」
そんなことを考えられる力。

大熊町の宝は人。

この本は、ほんの一部ですが大熊町の宝物を紹介しています。
まずは、第一弾です。

繋がることで強固に、認め合うことで高まる。
そんなきっかけを、この本でつくりたい。

この本が、これからの大熊町に
良いきっかけを
つくってくれることを願って。